

日時:令和6年(2024年)8月1日(木) 9:30~12:00

場所:市役所 特別会議室

欠席委員:1名

傍聴者:なし

委員長

開会

事務局

委員の出席確認・会議の成立

委員9名中8名の出席があり、会議の成立を報告。

委員長

傍聴者確認

本日の傍聴者はいるか。

事務局

本日の傍聴者はいない。

委員長

第2期夢・未来たからづか創生総合戦略評価(基本目標3)

第2期夢・未来たからづか創生総合戦略評価のうち今年度は基本目標3について、基本的方向ごとに審議を行う。基本的方向に紐づく具体的施策が複数あることから、各基本的方向における重要取組を中心に議論する。

まず担当部局から重要取組の内容について5分程度説明、その後25分で質疑応答を行う。1つの基本的方向ごとに30分程度審議できればと思う。担当部局から説明をお願いする。

産業振興担当
次長

「基本的方向(1)地域における産業振興と雇用の確保」

- ・重要取組「モノ・コト・バ宝塚による情報発信の充実」累計185選定資源。
- ・令和5年は6回のイベント物販、冊子作成、SNSによるキャンペーン、BS番組出演、20歳のつどいでの配布を行った。

委員長

取組の中で顕著な実績、PRすべきことはあるか。モノ・コト・バだけでなくもいいが、地域における産業振興と雇用の確保とあり、地方創生のための戦略なのでなにか活性化したことについて聞けたらと思うがいかが。

産業振興担当
次長

ひとつ事例として挙げると、市内の新規出店にかかる支援制度を設けている。商店街の空き店舗の増加が課題となっている。また商店街だけでなく、エリアごとに活動しているグループを対象に新規出店する際の補助制度を設けており、PRし、活用実績もある。

委員長

新規出店支援制度について補助金を創設し、PRされているということだが、実際どれぐらいの新規出店があったのか。どれぐらい活性化につながったのか具体的な数値は。

産業振興担当
次長

昨年度については4件の申請があり、審査会を経て2件採択をした。そのうちの1件の事業者が残念ながら事業主の体調不良という理由で新規出店を断念したため結果的には1件となった。この補助制度については年間通じて問い合わせもあるので、我々としても新年度早々に募集を開始したのち、予算の範囲内で2次3次と募集期間を設定しながら進めている。

委員長	交付金額はいくらか。
産業振興担当次長	120万円である。
委員長	1件で120万円が補助交付金額ということだが、やや小ぶりの印象を受ける。どこがPRポイントとなるのか。例えば問い合わせが多くあるのか。
産業振興担当次長	問い合わせ件数は測れていない。今後、実績として記録に残していくようにする。
委員長	委員から意見はあるか。
委員	商工会議所では大きく2つの意見交換を行っている。1つは若い人の意見を聴く場として5月に高校生に対して「宝塚の強み・弱み」や「弱みをどう改善したらよいか」という意見を集約した。もう1つは宝塚市で10億以上の売り上げがある主要企業8社の社長に面談を申し入れ、同じように「宝塚に対する課題」「強み弱み」や「市政要望」などを聴きまとめている。内容については市とも別途共有したいと思うが、意見交換で出てきたのが、やはり「宝塚はネームブランドがある。全国どこにいても宝塚の名前を知らない人はいない。ところが何を目標しているかわからない」という意見である。歌劇や温泉などはあるが、そこから産業の活性化やまちのにぎわいについて具体的にイメージできていない。「宝塚はいいね」だけで終わってしまうという意見が多かった。したがって宝塚の新たな柱になる産業となるものを考えるためにも、まずは現状の市内事業者がしっかり事業を伸ばし税金を納め、雇用を確保していただくということが基本になると思う。新たな事業を企画・実行するにも時間が掛かるため、まず宝塚で事業を営んでいる方達がいかに今の事業を成長させるかというところに耳を傾けてはどうかと思う。具体的な生の声を紹介すると、「宝塚は近隣の西宮や尼崎に比べると雇用条件が悪い。若干交通が不便、給料が安いことからパートさんなどが集まらず、近隣にとられてしまう」ことが深刻な課題と聞いている。また、住工混在地のため、昔からおられる企業は、これ以上事業所を拡張できないという理由から、グローバルや近隣他府県に生産拠点を移してしまい、雇用や税金が外に流れ出てしまっている。宝塚は住宅地の中に工場があるところがほとんどで、市の都市計画行政が後手だったこともあり、各企業の方々から「今更言っても仕方ない」という意見もでてきた。こういう生の声を実際に聞くことが重要で、新しいことをするのもいいがまず現状の事業者の方々がしっかり働いて利益をあげて雇用を確保し、税金を納めてもらうところに一つ柱を置いたほうがいいように思う。
委員長	現状の事業者の声に耳を傾けてほしいとのことだが、担当部局からなにかあるか。
産業振興担当次長	ご指摘いただいた通り、これまでは制度のお知らせの際などに事業者とお話しすることはあったかもしれないが、市と市内企業とで定例で意見交換することはあまりなかったと認識している。積極的に商工会議所とも連携しながら、市としても主体的に現場の声を聞き取ることに努めたい。

委員長	現状の事業者には、これまであまり接触がなかったのか。
産業振興担当次長	コロナ前までは事業訪問というものをしていたと聞いている。しかしながらコロナ禍でストップしてしまっているので、今後前向きに検討していきたいと考える。
委員	是非とも前向きに検討されるよう、宜しく願いたい。前回の委員会で、宝塚は医療や社会福祉は他府県に比べても充実しており誇れることだと思うが、予算の制約からそのリバウンドが産業や観光分野に出ていると意見した。予算配分上のバランスがとれていない。簡単に舵は切れないと思うが、少しずつでも小さなことから成功体験を積み重ねるために市内で事業を営まれている社長の意見をしっかり聞くということが大事だと思う。商工会議所と歩調を合わせて進めていただければと思う。
委員長	そのほか意見あるか。
委員	基本目標3の「活力あふれる創造性豊かなまちづくり」の自己評価欄の成果や今後の課題のところで基本的方向1について触れられていない。KPIを見ると評価できないということかもしれないが、評価欄に書いていないことが一番問題ではないだろうか。基本的方向ごとに具体的施策があり、KPIが設定されているかと思うが、基本的方向(1)でKPIが11個とたくさん設定されているのに触れられていないのはおかしい。また、モノ・コト・バの選定が重要取組であるが、一昨年の行政評価委員会の書面評価で意見を出しており、また今年度の1回目の委員会の総合戦略の改訂の議論においても、モノ・コト・バの選定資源数を指標とすることは妥当ではないのではないかと意見を出している。指標を今後考えていくと答えがあったところであるため、今、モノ・コト・バを重要取組として、議論することに意味があるのだろうか。また具体的施策⑤のKPIについて高齢者に偏っているように思う。基本目標3の冒頭では「女性が自らの希望によって多様な働き方を選択でき、輝ける社会の実現に向けた取組を推進します」とあるがそれについてのKPIが設定されていない。デジタル田園都市国家構想交付金の評価でも、若者就労支援についてうまくいっていると書いてあるので、そのあたりを指標に入れられるといいのではないか。それから、具体的施策⑤でアンケートをKPIにしているが目的がよくわからない。若者就労支援や女性への対策などを入れることでアンケートはいらんのではないか。いずれにしても基本的方向(1)は基本目標3の最重要であると思うので、総合評価欄で取り組みと成果の記載をお願いしたい。
委員長	大きく4つ意見が出たと思う。①過去の評価でモノ・コト・バ宝塚についてコメントしている部分はどうなったのか。②基本方向(1)についてはなぜ自己評価を記載していないのか。③具体的施策⑤のKPIについて高齢者に偏っている。女性や若者について触れないのか。④アンケートについて不要ではないか。むしろ若者・女性の指標を掲げてはどうか。という意見がでた。いかがか。
産業振興担当次長	1点目モノ・コト・バ宝塚で成果指標について意見をもらっていると認識している。モノ・コト・バ宝塚の取組自体がたくさんのものを選定し、その中で効果的に選定資源の中からピックアップして効果的な情報発信をしようとしており、できるだけたくさんのものを選定しているという現状である。その中で宝塚らしいものを多く選定することがいいということでは指標としてい

る。担当部としてはこのまま指標としていきたいと思っているが、過去の経緯も確認する。

3点目の KPI の設定について、女性活躍、若者就労支援の KPI については今回改訂する際に指標設定について検討していきたい。

2点目、モノ・コト・バ宝塚の自己評価について本日資料差し替えさせていただいており、その中には基本的方向(1)についても自己評価、課題共にコメントしている。

委員長

自己評価として「イベント等の機会を捉え、モノ・コト・バ宝塚の物販を実施するとともに、SNS のフォロワー登録を促すキャンペーンを行い、積極的な情報発信に努めた。」とあり、課題として「モノ・コト・バ宝塚の SNS についてフォロワー増の取組は行ってきたが、発信頻度に課題があるため、今後はコンスタントに発信していく」とある。それについて委員どうか。

委員

モノ・コト・バ宝塚の記載の追加については確認している。他の KPI 達成状況では、例えば1件の移住が実現した、など成果を記載しているが、こちらは努めているという表現となっている。努めたというのは成果なのか。そのあたりがよくわからない。1番言いたかったのは、基本目標3を達成するに一番重要な基本的方向だともっと自己評価で記載することがあるべきだろうと思う。自己評価で北部地域の部分が半分以上占めている。そこまで北部に偏る必要があるのか少し疑問に思う。もっと基本的方向(1)で実績が誇れるような記載をしてほしい。

産業振興担当
次長

KPI の設定によってそれに紐づいている事業が今日の議論となっていると思う。そういう意味では先ほど言った新規出店にしている補助や既存店舗が事業継続をするために店舗や事務所を改装するための補助を実施しているそういったところがアピールできるような KPI の設定となっていないということかとおもう。総じて改訂のタイミングでもあるので実施している施策を見ていただけるような KPI の設定を改めて検討していく。

事務局

事務局より補足する。先日、1回目の行政評価委員会でいただいた意見については事務局でいったん取りまとめて、全庁に対し見直しができるかを照会し調整しているところである。モノ・コト・バ宝塚の選定資源については、過年度の評価でも意見をいただいていることから、今後については担当部と検討してまいりたい。

委員

この KPI は指標として確定なのか。

委員長

国の補助金を宝塚市で交付をうけるために KPI を先に設定して内閣府に申請していると思う。途中変更は内閣府と協議をするか、掲げた KPI で評価をして今後反映するかのどちらかかと思う。

委員

KPI がこれでいいのかと思うものが半分以上ある。増えることが本当にいいのかというものもある。例えばシルバー人材センターの人数についてよく読むと入会者はいるが亡くなっている方もいるので横ばいとなっているという記載がある。また、モノ・コト・バ宝塚の選定数は頑張っ採択しているのであれば増えて当たり前である。なにか対策したから成果につながったということを書かないといけない。例えば、市民農園の利用者数を増やそうとするのであれば今満杯であるならば場を増やさないと人は増えない。それにもかかわらず、開設も閉設もなかつ

たため利用人数も増えてないと記載されており、なにを評価しようとしているのかがわからない。

事務局

先ほど委員長が言ったように見直しにあたっては国の確認が必要となっている。第1回委員会で説明したように、今回デジタルの視点を追記するために改訂をするので、このタイミングでKPIについても変更していきたい。第1回委員会でも意見をいただいたが、本日いただいた意見も取り入れていきたいと考えている。

委員

では、具体的にいうと「市内で商品サービス等の提供を受けたいと思った方の割合」などはアンケートだから反映することは無理なのか。この質問ではなく例えば「市外に行くときに市内のものを買ってお土産に持っていか」などもうちょっと具体的に書いてもらえるとうまく当てはまるのと思う。他にもKPIの「一店舗あたりの年間商品販売額」が施策とどう関係するのかよくわからない。さらに、北部のまちづくりのところで同じ指標があるが、宝塚市のデータと北部のデータは一緒なのか。

産業振興担当
次長

再掲として、同じ指標を使っている。

事務局

第一回委員会で指摘があった、北部と市全体の施策の指標の再掲については、修正すべく調整している。ただこれは令和5年度の評価なので、その時点の指標として変更せずに載せている。

委員

国の施策に合わせて資源を獲得するというのが目的であれば、ほどほどの力の掛け方でいいのではないかと。他方、もらったお金をちゃんと使っているということで整えるのであれば力も入れてもいいかと思う。評価表やこの委員会、ひいては行政評価が何のためにあるのかというと、宝塚市の行政運営をより良くするというに説明責任を果たす、もらった交付金に対してしっかり効果上げましたということを外に説明するというのが1つであるが、もう少し踏み込んで、施策をよりよく執行していくことを目指すのだとするといういろいろな意見せねばならないことがある。例えば、市内で商品サービスを受けたいと思った人の割合は、施策によってコントロールできるかというできない。施策とKPIとの距離が遠い。仮にモノ・コト・バ宝塚のSNS発信を増やしたとしても、市内で商品サービスを受けたいと思った人の割合に影響はあまりしないと思う。KPIとして市民アンケートは、施策の成果を測る数字としては相当に距離のある数字なので、そもそも施策のアウトカムが測れないものについては、こういう活動をしましたというアウトプットでフォローしなければいけない。指標を見直すときには行政活動や行政活動の直接の成果が見られる指標を練られたほうがいい、というのが委員会で繰り返し意見しているところである。一方で、この評価表自体がとにかくやりましたという説明をするためのものであるならどこまで意見を言ったらいいのか難しい。言い換えると、課題が良く見えて施策をコントロールする指標が入ってくることが望ましいが、課題が良く見えるとお金をちゃんと使いましたという説明には向かないかもしれない。どちらの立ち位置なのか判然としない。説明責任を外形的に整えるというものなのか、もう少し踏み込んで施策を適正に制御したいと思っているのか。私の姿勢としてはもう少し施策をいい形に制御することを考えたほうがいいと思う。そうだとすると新規事業者数も大事だが、起業家や事業者への支援強化と書いてある中、事業者を訪れて

いないのはよくない。コロナ後の事業継承といわれており、トラブルも起こっている中、新しい事業者を起こすことと、減りつつある事業者を支えることは双方大事である。コロナのインパクトの後に、事業者の継続意向であるとか、事業の5年後10年後に対する意識であるとかを話を聞くことが大事なのではないか。そういう活動を是非していただきたいし、そういうことの成果が測れる指標があればいいとコメントさせていただく。

委員

大きく2点ある。1つは KPI で基準値が新規で、目標値が基準値以上というものが2点ある。新規指標はすべてそうなのかと思ったらそうになってないものもある。基準値が新規で目標値が基準値以上としているのはどういう意味があるのか。これでいいのか。

もう1点は、基本的方向(3)の観光集客の推進で、外国人の観光客が令和5年は9000人と前年より7000人ぐらい増えている。これに関して、外国人の方がどこに行っているのかというような分析をしているのか。来たはいいが、市内に泊まるのか泊まらないのか、泊まる施設があるのか。下の KPI に新規観光コンテンツ開発数があるので、外国人がどこに行き、どんなニーズがあるのかということ踏まえて新規観光コンテンツの開発をすれば、より宝塚に滞在する時間が増えるのではないかと。より詳細な分析が必要なのではないか。KPI に文化芸術関連のページアクセス数を掲げているが、そのほかのニーズを開拓していく必要もあるかもしれない。ご検討いただきたい。

空き家活用件数が KPI となっているが、令和5年度の実績は1件にとどまる。一方で、別の指標で移住相談者とあり、空き家活用が移住に限定されているのではないかと。移住だけではなく、レストランをするなど集落に滞在して楽しめる街並みにしていくという視点も持つべきではないか。外国人観光客はホテルに泊まらず民泊する方も非常に多いので、もしいくつか固まった空き家があれば、それを民泊できるような環境を整えることで、観光発展にもつながるのではないかと。

委員長

今基本的方向(1)の議論を中心にしていたが、今いただいた意見は(2)や(3)に関することが多かったのでそちらを議論する際に承りたい。議論が先に行きそうなのでこのあたりで(1)についてはいったんここまでとしたい。ここまでのコメントとしては「地方創生」の枠組みでやっている。そうすると人口を社会増なり自然増で増やすことがひとつ大事な話となる。それを担保するためには雇用と産業の振興、要するに活性化が必要だという話になっている。では、活性化したかを測るためには、どのような指標を設定すべきかという重要な議論である。成果が1件2件ということではいけないし、地域が活性化するという視点で指標を立てていただきたい。今の指標では、なかなか活性化を測るのが難しいということであれば、改訂をするタイミングで、指標を見直していただければと思う。今回は部分改訂なので、なかなか抜本的な見直しは難しいかと思うが、地方創生の心臓部分にあたる部分なので「これがPRできる」ということをしっかり打ち出させていただくことが大事である。

つづいて基本方向(2)多様な文化政策の展開。こちらも説明は同じく、活性化のひとつとして文化政策さらには観光というのがあると思う。人の行き来、交流人口をどう増やしていくのか、さらにはその先にある定住人口をどう増やしていくのかという話になろうかと思う。地方創生の文脈でお聞きしたい。文化と観光とは近い関係にあると思うので、(3)の観光集客の推進も合わせて説明いただきたい。

観光文化振興

「基本的方向(2)多様な文化政策の展開」

担当次長

・重要取組「文化芸術に関する効果的な情報発信」

- ・文化政策関連の事業はなにか事業をたちあげるものではなく観光施策と絡め、宝塚歌劇の市民の貸切公演を子どもや市民全体に向け実施するなど文化に触れる機会を増やす取組をしている。また、手塚治虫記念館の入館者にミニイベントなどの満足度を上げる取組をすることで文化に慣れ親しんでいただく取組を意識して行っている。
- ・市が所管する文化施設が集まっている文化芸術センター・手塚治虫記念館・文化創造館では、3館連携して情報交換やスタンプラリーを実施するなど、点ではなく線でつながる取組をしている。
- ・(2) 具体的施策①の KPI である「文化芸術活動によく親しんでいる」と回答した市民の割合について、基準値と実績値に乖離があるが、市民アンケートで「よく親しんでいる」と答えたのが 8.5%、「親しんでいる」と答えたのが 22.2%、「あまり親しんでいない」が 41.6%、「まったく親しんでいない」25.4%、無回答が 2.2%なので大体3割ぐらいの方が親しんでいると答えている。KPI として「よく親しんでいる」方のみ載せているが担当課としては、3割は親しんでいると一定の評価をしている。ただそれに安心しているわけではなく、残りの7割の方は関心がない、あるいは関心があっても親しんでいないとお答えになっているので、施策で関心を上げていきたいと思っている。
- ・(2) 具体的施策①KPI の「協働による文化芸術関連事業数」はコロナによって減っている部分が元に戻ったと思っている。高齢化もあり、コロナで止まって再スタートが切れない団体もあることが課題である。
- ・HP のアクセス数は活動等により増えていくと思っているので、情報発信を強化することでさらに知っていただく機会が増えると思っている。

<「基本的方向(3)観光集客の推進」説明>

- ・(3) KPI の観光入込客数については増加傾向にある。一時コロナで 600 万人にまで下がった時期もあったが、近年は 1000 万人をキープしている。
- ・(3) KPI の外国人観光客数も増えているが、以前は 16000 人～18000 人だったのでまだまだ伸びしろはあると考えている。全国的にインバウンドが増えてきているので、力を入れていきたい。
- ・(3) KPI 観光コンテンツについてはデジタル田園都市国家構想交付金を活用して実施している。目標値に近い数ができたが、商品化されるところにまで持っていきたい。

委員長

令和5年度のデジタル田園都市国家構想交付金の交付額はいくらだったか。

事務局

2つの事業をしており 516 万と 262 万なので合計すると 770 万ぐらいの交付を受けている。

委員長

それぞれどのような事業か。

事務局

まず1つ目は、市花であるダリアの生産者の育成やダリアを活用した加工品開発、北部地域への移住支援、ビジネスモデルの立ち上げ支援、新規観光コンテンツ開発を行った事業である。もう一つが、店舗のリノベーションや若手起業家の支援、教育の中で自己表現を高める事業である。

委員長	それであれば、北部の移住の件やダリア園などについても補足してほしい。国からの交付金を受けてこのような成果がでたという説明が必要である。文化については、交付金は活用していないということだと思う。交付金については北部移住やダリア園の説明が不可欠。
北部地域振興 担当次長	北部地域の移住については、後ほどのデジタル田園都市国家構想交付金の議題でご説明しようかと思っていたが、ここで説明させていただく。北部地域の移住相談件数については前年度からは数字が下がっているものの長期的には増加傾向で、総累計としては42件あった。加えて今年度の4～7月でも4件あった。自己評価のところにも記載したが、なかなか貸してくれる空き家が見つからない中でも1件の移住が実現した。移住相談者は、西谷の田園風景の中にあるいわゆる古民家を希望される方が多いが、今回の方については市街地にあるような家でもいいということで契約できた。今年度に入り、住民の方から移住に活用してもいいと言っていただけの空き家の数も徐々に増えてきており、契約に至ろうとしているものもある。この取組を始めて3年となるが、徐々に地域にも浸透してきたと感じているところである。 ダリアについては、生産者の高齢化が一番のネックになっており、それを支援するためにダリア生産を支援するサポーターへの補助を3年間行っていた。2名加わり9名がダリアの生産の支援をしている。ただ、ダリア生産には専門技術が必要であり、本格的な担い手確保には至っていないことが課題である。ダリア園の来園者についても、コロナ時は、遠くに行けないという制限があったこと、ダリア園が屋外であることから、来園者が増加したが、コロナが一定収まったことで遠くに行く人も増え、来園者は減少に転じた。ただ、宝塚ダリア園は花摘みできる特徴があるので、楽しんで帰っていただいているかと思う。
委員長	これらの政策で国から交付を受けている顕著な実績というものがよくわからない。新規観光コンテンツについてはコンサルを入れておこなっているということで、目標を達成しているのでPRできる話だとは思う。それ以外のところでなにを成果といえるかが不鮮明。交流人口や関係人口を増やすなどPRできることはあるか。
観光文化振興 担当次長	新規観光コンテンツについては、事業者の機運を醸成させるという点が評価できる。他の施策に関しては交付金を充てず、市が独自で行なったり、ふるさと納税を充てたりしているものである。
委員長	それでは、機運醸成とは数字で説明するとどのようなものがあるか。
観光文化振興 担当次長	今まではコンテンツ開発は、市が中心となっていたが、民間の活力や事業者にお願いすることで底上げし、市は後方支援をすることで観光客の増加につながるコンテンツを育てていきたい。具体的にいうと、昨年度に武庫川河川敷でランタンを上げる事業を実施し、市も後方支援していたが、今年度に関しては自主的に、かつ規模を大きくして実施すると聞いている。このように、コンテンツを増やしていくことが観光客や住民の満足度を上げることに繋がると考えている。
委員長	機運醸成で最終的には観光入込客数につながると思う。数字で説明できるものがあるかを聞きたい。例えば、入込客数が何名から何名になったのか、イベント参加者が増えた、機運醸成

	の研修や説明会などの参加者人数が増えたなどの説明は可能か。
観光文化振興 担当次長	3年間まとめてだと33団体 54 名が事業に参加されたと聞いているが、年度ごとの数字は手元がない。
委員長	この場では結構だが、しっかりと数字をあげて説明することが大切とコメントさせていただく。それでは他委員いかがか。
委員	デジタル田園都市国家構想交付金を活用しているということだが、「田園都市」というところは北部西谷地区で感じるが、「デジタル」の要素が感じられない。デジタルは手段なので書かなくてもいいのかもしれないが、デジタル化へのアプローチが目標やKPIの設定からは感じ取れない。北部西谷地区は宝の山だと思っている。市の面積の80%を占め、ほとんどが森林地帯で人口は全体の1%未満。2000 人ぐらいしかいない。どんどん人口は減っている。しかしながら西谷にはダリアもあるし、ウェルネスツーリズムもあるし、地方移住のニーズもあり、観光や若手起業家を誘致できる場所でもある。デジタル田園都市を目指すために宝塚市として北部西谷地区に力をいれていくということであれば、今後5年10年かけてどういう風に活性化していくのかという基本構想のグランドデザインのようなものがあって、そのコンテンツとしてダリア事業や移住、観光コンテンツなどがあるという展開にすべきである。今は、北部西谷地区にある事業に補助金を付けて PR しましょうという場当たりの施策に見える。やるならまずグランドデザインを打ち出して 700 万や 800 万ではなく1億ぐらいかけてやっていかないと結局助成金を配布するだけになってしまい、長期的に地域が伸びるような施策には思えない。新規事業のための投資はヒト、モノ、カネである。ヒトは若手起業家に対するセミナーなどで支援をしている。モノは設備や建物のマッチング、古民家再生や社会インフラ整備など。そのための予算（カネ）をつけていくということをメリハリ付け KPI として設定したほうがいい。現状の施策は今あるものをかき集めてきた感じに取れてしまう。本当に北部西谷地区がデジタル田園都市になれるのかということが、この施策ではなかなか見えないという印象である。もしデジタルを活用するのであれば、一番の課題は社会インフラ整備。例えばバスなどの公共交通手段の代替となる「自動運転バス」を実証実験でやってみるとか、ダリアも最近の猛暑でダリア自体の生産量が悪くなるのであれば、地域の農林水産高校や大学とコラボし「スマート農業」でダリアの品種改良をすとか、下水道整備が遅れている箇所には「循環型水システム」を試験的に導入すとか、森林を保護する「スマート林業」など、労働人口が減ってくるところにデジタルや ICT・IoT などを使って社会インフラを整備していくような事業もこの中にあってしかるべきと思う。そういうものを市内企業に公募して声をかけ、市だけでなく一緒に、産官学連携でやれるよう風呂敷を広げるべきだと思う。それが本来のデジタル田園都市国家構想の主旨だと思う。まずはグランドデザインをしっかりと明確にしていきたい。
委員長	西谷地区のグランドデザインについて言及いただいた。しっかりお金もつけてほしいということだがいかがか。
北部地域振興 担当次長	西谷地域は市街化調整区域に指定されており、建築物の建築に制限がかかっている状況である。そういった中で現在残っている豊かな自然環境と田園を適切に保全しながら地域の方と共に活性化に向けたまちづくりを進めていこうとしている。地域の方と今ある資源を生かした

	がらイベントをしたり地域活性化をしたり、西谷を訪れる方の関係人口を増やすべく動いている。大きな開発などはなかなか踏み出せない状況にある。
委員長	先ほどの委員の意見がこちらに関係してくるかと思うが、観光について外国人観光客はどこにきているか分析しているのか、文化芸術のニーズはどうなっているのか。
観光文化振興 担当次長	文化のニーズに関しては、文化芸術センターでいろいろな方が活動しているが、範囲が広くなかなかジャンルごとに把握できていない。インバウンドについては、人流として外国人の方が市内でどう動いているのかは把握していないが、手塚治虫記念館に関しては受付の際にどこから来られたのかを聞き取りしている。以前は多言語パンフレットの配布数などで判別していたがそれだとアバウトなので受付で直接聞くようにし、統計を取っている。令和5年度はアメリカから来られた方が多く、続いて台湾、中国。今年に関しては中国の方が少し減って、欧米からはフランスの方が多く来られていた。交付金を充てているわけではないが、関空や京都タワーのツーリストインフォメーションに有償でチラシを置いてもらい、来日された外国人の方に紹介してもらおう取組をしている。昨年3か月ほどツーリストインフォメーションで周知してもらった結果、その期間の手塚治虫記念館の来館者が倍ぐらいに増えた。今年度も引き続き行っている。データの把握には努めており、次の施策にも活かしていきたいと思っている。
委員	そういった外国人の方は宝塚市に泊まるのか、それとも神戸や大阪などで宿泊しているのか。
観光文化振興 担当次長	主には大阪から来られた方が多い。海外から来られる方は1日目と最終日だけ行くところを決め、中の日程は決めてない方も多いので、そこで宝塚を紹介していただき来ていただくことを狙っている。市内の宿泊施設が10施設ぐらいしかないと、宝塚歌劇の開催日には高い稼働率があるので、宝塚に泊まりに来る外国人の方を増やすことはできていない。一部のホテルでは「温泉」というキーワードで海外から人が来ていることもあるが限定的である。KPIである外国人観光客9000人のうち、宿泊している方は150人ほどと少なく、泊まっていただくまでには至っていない。
委員	西谷地区を活用できないのか。空き家活用等をして来訪者が北部地域にとどまってくれるような政策は打てないのか。プロジェクトマッピングなどをして夜もきれいにすることで、夜までとどまっていただき、泊まっていただくということができないか。
観光文化振興 担当次長	手塚治虫記念館でも自然というキーワードは重要となっている。建築規制などもあるがおっしゃったように宿泊者を増やす方法も考えていきたい。
委員長	外国人の方の動きは大阪から来ているのであれば、それを把握することが必要である。ただ、把握するのは少し難しいかとも思うがいかがか。
観光文化振興 担当次長	国際観光協会と連携しており、協会職員が旅行会社からの出向ということもあり、データの把握は行なっている。

委員長	ルートの中に宝塚が入っているかどうか、そして宿泊がお金になるので宿泊の可能性として西谷との連携で民泊と連動できるのかどうかということが意見として出ている。また体験型の宿泊など外国人のニーズを把握しているのか。市内にお金を落としていただくための仕掛けづくりがなされているのか、されていないのが質問の主旨だと思う。これについてはいかがか。
観光文化振興 担当次長	商品化にまでは至っていないが、外国人の方にモニターで市内に来ていただき、感想や意見を聞く取組は観光協会や県と連携してやっている。まだ、これからの段階で詳細の分析には至っていない。
委員長	情報を把握することが重要ということはどう考えているか。
観光文化振興 担当次長	認識している。
委員長	旅行業者がデータを持っていると思うので、データを共有してもらい、それを分析し、それに対応した形の商品開発の取組を公民連携で進めないと地域の活性化・雇用に繋がらないのではないか。
委員	この資料では外国人観光客数以外あまり見えない。達成とその理由を見てみても、KPIの「歴史民俗資料館の入館者数」について一定の評価をされているが、学校での利用があったというのは交流人口ではない。「デジタルアーカイブの閲覧回数」についても、定着したら閲覧回数が減少したと記載されており、なかなかコメントしづらい。観光入込客数も外国人観光客は増えているが、国内の観光客は基準値を回復していない状況がある。問題はもっと深いところにあるのではないか。その中で一番気になっているのが内発的な「文化芸術活動に親しんでいる」という市民アンケートである。この基準値の24.5というのは「よく親しんでいる」と「まあまあ親しんでいる」とを合わせた数字なのではないか。そうすると基準値では合わせた数字で、実績値は「よく親しんでいる」のみ取っているのは統計の扱いとしておかしくないか。また、そもそもこの市民アンケート自体が施策の成果なのかという疑問がある。むしろ深刻な問題は、新型コロナウイルス感染症感染拡大を契機として一部の高齢者が文化芸術活動を引退し、再開に至っていないと思われることではないか。文化芸術活動は行政が把握しきれない部分もあるかと思うが、その問題意識に立って考えると、文化芸術活動の数や発表の機会、サークルの数などがKPIであるべきでないか。基準値と実績値が乖離しているのに問題はないという考えはよくない。コロナ禍の再起動や高齢の方に限らず文化芸術活動の取組が必要である。評価表を見ると、それなりにできているという風に見えるが、そこに問題意識を感じる。外国人観光客数については、PRをしたらたくさん来たということはとてもいいことで、伊丹空港を通るときに手塚治虫記念館の広告がでているなど世界から人を呼べるコンテンツを持っているのが他の自治体にはないところだと思う。本来外国人だけでなくたくさんの人を集められるコンテンツを有しているので、そこからどうやって地域につなげるかをもう少し考えるべき。広告打ったら人が来ただけではなく、もう少し展開していかないといけない。目線や体制、関係者の連携をもっと構築する必要があるように思った。

観光文化振興 担当次長	KPI に関しては一度整理をしていく。問題意識が低いという指摘も受け止め、今後注意したいと思う。
委員	観光集客のところで KPI に外国人観光客数が入っているが、日本全体でいうと 3000 万人～4000 万人の外国人観光客が来ているのを考えると、あまりにも数字が低すぎる。日本の人口が減っていき、ある程度インバウンドに頼らないといけない中、あまりに目標値が低いが、今後インバウンドの獲得に注力していくのか。それによって、今後の観光コンテンツにも影響がでてくると思う。それが本当に正しいのかを検討して、ターゲットを検討すべきである。
観光文化振興 担当次長	委員のおっしゃる通り外国人観光客は増えていく。宿泊単価や落とす金額も大きいということで、市としても観光協会としても獲得に努める。一方で、歌劇というコンテンツがあり、そこで一定国内のまとまった観光客もいらっしゃるということがあるので、両方のバランスを見ながらその時々に応じた取組を行っていく。今はインバウンドに注力している。
委員	今まで外国人観光客が集めきれしていないのはなにか課題があったのではないか。
観光文化振興 担当次長	今までインバウンドに関しては意識が低く、取りに行けていなかった。コロナ以降一旦リセットし、注力している。
委員長	現状分析としてはなにが不足していると考えているのか。
観光文化振興 担当次長	やはり情報発信が不足している。近くにあるのに知っていただけていない。そこが課題と思っている。受け入れ態勢の課題として例えば多言語対応などがあるが、まずは来ていただくこととして注力していこうということで広告を行っている。
委員長	情報発信と受け入れ態勢だけか。受け入れ態勢は具体的に何をイメージしているのか。
観光文化振興 担当次長	来た方が展示等をみられてどれぐらい理解をしていただけるかだと思う。展示物の説明であったり、歴史であったりをどこまで伝えられるかと考えている。
委員長	観光コンテンツはどれぐらい育っているのか。先ほどの話にも合ったように、他の自治体がうらやむようなパワーコンテンツをいくつか持っている。コロナで打撃があったことはよくわかるが、説明してもらった人や観光に関わる方々などの人についてはいかがか。コロナ前に活動していた方々が戻っていらっしゃるのか。
観光文化振興 担当次長	文化活動については、高齢の方がコロナで活動を一度止めてしまい再開に至っていない現状がある。そこをもう一度再開していただくのか、あるいは若い方をどんどん増やすのか考える必要がある。観光に関しては、いわゆるガイドは。インバウンドに対して歴史も含めて説明いただけるような方を育成していくべく、モニターツアーなどで一緒に研修をしている。ヒトに関しては数として多いかというところと多くなく、まだ十分に育っていない。
委員長	宝塚の中で観光をしっかり支えるためには、それを支える施策や環境が整ってなければなら

	ない。そういうところも市としても本来は支えなければならない。施策の切り替えがコロナの前後でできたのか。工夫はしているのかと思うがその検討はしているのか。
観光文化振興 担当次長	今まではできておらず、まずは土台作りをしており、ガイド等の人を育てている途上である。
委員長	環境の整備も大切ということは指摘として申し上げる。
委員	(2) 多様な文化政策の展開のところで、指標は、文化芸術関連事業数ではなく、参加者数や来場者数にすべきではないか。観光集客のところも新規観光コンテンツの数ではなく、コンテンツによる誘客数を KPI にするべきではないか。コンテンツ開発は市から観光事業者にお願いしておこなっているのか、それとも公募で行っているのか。
観光文化振興 担当次長	コンテンツに関しては事業者というより団体・グループを集めて1つのイベントができること1コンテンツとして数えている。そのイベントに応じて、来場者が 300 人来たなどは確かに KPI に使えると考えている。
委員	選定の段階で、コンテンツの事業予算がいくらくらいかかるのか、この事業によってこれぐらいの人が集まると想定されるかなどはチェックするのか。
観光文化振興 担当次長	チェックしている。大体このイベントをしてこれぐらいの人が集まるということは選定段階で把握している。
委員	今後の課題のところに継続性について記載がある。単発のものではないということか。それであれば目標通りの集客ができていないかを KPI に掲げたほうがいいのか。
観光文化振興 担当次長	フォローは毎年しているので、意見も踏まえて検討する。
委員	感想だが、国際観光協会の HP を久しぶりに見た。本当に盛りだくさんで、たくさんすぎてわからない。本来は「宝塚市に行きたい」「なにがあるかな」「こういうところに行きたい」などで調べる人が多いと思う。武庫川の河川敷、武田尾のトンネルなどでページが分かれているが、それをうまく整理できないか。今暇な人ばかりではないのでポイントですぐ探し出せるようにできないか。また、コロナが過ぎたと書いているが、動画では観光大使がまだマスクを着けている。これは変えたほうがいいのかと思う。
観光文化振興 担当次長	マスクについては必要に応じて外したりしている。
委員	案内動画なども更新したほうがいいのかと思う。
委員	宿泊も含めて宝塚歌劇団の影響は大きいと思う。また実数は出ていないと思うが、歌劇団の

	休演期間は観光客数が減っているのではないかと。花のみちも寂しく誰も歩いていない時期もあった。細かなコンテンツでたくさん観光客を拾うのも1つの方法ではあると思うが、一番集客や宿泊につながるのは歌劇を見に来る方だと思う。海外の方は比較的少ないとは聞いているが、コロナの次に観光や商業に影響してくるのではないかと。先ほど話がでたモノ・コト・バ宝塚のコトがいっぱいある中で、宝塚歌劇はほんの一部だが影響があまりにも大きい。歌劇と連携して、数字をきちんと把握し、方策を考えていくべきである。
委員長	かなり大きな外部要因だと思う。ご担当だと補助金を交付している団体等をどうするかというところに目がいくだろうが、歌劇の影響についてどう捉えているか。
観光文化振興 担当次長	休演の影響は我々も注視している。歌劇のあるときとないときで市内のにぎわいも違う。歌劇と連携してどういう取組ができるか、公演がないときもどういう取組ができるかなども事業者にとって死活問題なので、観光部門だけでなく商工部門でも考えていく。 (5分休憩)
道路・公共交通 担当次長	「基本的方向(4)北部地域のまちづくり」 ・重点取組「北部地域の公共交通ネットワークの見直し」について ・北部地域では、JR 武田尾駅と各集落を阪急バスがつないでいる。 ・西谷地区まちづくり協議会の福祉部会が中心となり高齢者・障害のある方のボランティア輸送を実施している。 ・バスについては朝の通勤や通学の際に一定まとまった需要があるが、それ以外は利用が少ない。 ・デマンド交通の導入可能性を地域の声を聴きながら考えていきたい。
委員長	今の説明は公共交通についてだったが他もあるか。自己評価も公共交通の記載が多いが、交通だけの説明でよかったか。北部地域のまちづくりは長く住んでいただけるような地域を作ることが地方創生の視点では重要となる。
北部地域振興 担当次長	先ほども話をしたが、空き家に関しては1件の移住が実現した。潜在的な空き家というものがたくさん残っている状況。空き家はあるもののお盆と正月のみ帰ってくる形でとりあえずおいてという家がたくさんある。昨年からは地域の自治会長を通じて空き家を活用する取組、人口が減ってくる中で人を呼び込むような取組をまちづくり協議会が積極的に行っている。こういった取組を知らない方がまだいらっしゃるのでも自治会長を通じて今後住み続ける意向があるかなどをまちづくり協議会などに連絡してほしいという旨を書いたチラシを昨年、今年とお配りしている。その効果もあり、少しずつ気持ちのハードルも下がったのか、いくつか活用してもよいという空き家が見つかった。連絡は昨年度で12件の情報を地域からいただいた。実際住める家かどうかは別の問題であるが、情報が集まるようになったことだけでも実績があったかと感じている。
委員長	潜在的空き家について、自治会長を通じて取組を広報して関わりを持とうとしているのか。そ

	こは使われている家という認識ではないのか。
北部地域振興 担当次長	荷物が入っているので使っていただけないと考える方もいる。家を置いているだけで、管理費はずっとかかっているの、この際きれいにしていただき、誰かに貸す、売るなどをお考えいただけないかというチラシとなっている。チラシは各戸に配布をしている。
委員長	12件の情報が来ているというのは、今話を聞くとほぼ住んでいない家ということか。
北部地域振興 担当次長	12件は自治会長に寄せられた情報であり、情報はいただいたものの実際に貸せるのか、売れるのかはまちづくり協議会が直接ヒアリングをし、現状や今後の活動を持ち主に理解いただいたうえで進めていかないといけないと思っている。
委員長	売れるか貸せるかというのは不動産の問題になると思うが、不動産屋に情報を提供することになるのか。
北部地域振興 担当次長	まちづくり協議会の一連の取組に売買や契約などの専門的な知識が必要かと思う。アドバイザーとして不動産業者にも入っていただき助言をいただき、地域でチームを組んでいる。取組をするなかで壁にぶつかることもあったので、アドバイザーとして入ってもらった。
委員	先ほど北部西谷地区のグランドデザインの話で述べたが、公共社会インフラ整備についてはファンダメンタルな課題である。自家用車がない方は公共交通しか移動手段がなく、物流なども農業、観光面の振興で大切となってくる。バス事業者も営利企業なので当然利用人口が減ってきたら運行ができないかもしれない。例えば、今流行りの「カー・シェアリング」を検討出来ないか。従業員用の送迎バスを運行している企業と連携し、お金を出し合って企業間でシェアリングバスを出すとか、それに市の助成をいれるとか、みんなで支えあっていくような一歩進めた行政をやっていかなければ、バス事業者だけに頼るのも限界が来ているのではないと思う。更に進めるのであれば、自動運転などの実証実験を、デジタル田園都市国家構想交付金を活用しながらやってみるとか AI、IoT みたいなものを活用し限られた区間で電気自動車を走らせるなどすれば、次への希望が持てるまちづくりになるのではないかと。また中古住宅や空き家の話があったと思うが、宝塚には中古住宅のリフォームで急成長した会社がある。ベッドタウンの住民の高齢化が進み中古住宅が増えている。そこに着眼しリフォームや家具をセット販売する事業を立ち上げ、若い方が活躍している不動産業であり、売り上げも伸びている。そのような企業から、西谷地区の活性化についてノウハウなどを頂き、中古住宅や移住イベントなどを企画してはどうか。交通インフラ・社会インフラを整備して、農業や観光を活性化するための大きなグランドデザインを描いて、このコンテンツにはこういう予算をつけるというロードマップがいるのではないと思う。次の議題のデジタル田園都市国家構想交付金の話では、グリーン事業が主体と思うが、もう少し全体像を明確にしてデザインを描いたほうがいいと思う。
委員長	公共交通についてコメントがあったがいかかがか。考えている部分があるのか。
道路・公共交通 担当次長	公共交通のあり方として、地域の方に乗っていただくという醸成づくりも必要。人口が少ない中で商業施設などもない。交通があまり発生しないところには一定公共交通が必要と思って

	いる。市として駅とかとつなぐこととなると思う。地域の方が西谷のまちづくり協議会もしくは連合自治会の中で交通の協議会を作っているの、市も出向いて醸成づくりをしながら地域に合った交通は一体なんなのかということを協議しているが、なかなか結論が見いだせない。その中で市も補助金を出したりして進めているが、委員が懸念された通り、一方で交通事業者もある程度のお金を負担しながら運行しているので、交通事業者の使命感に頼ってしまっている状況である。今後、こういったやり方が地域にふさわしいのかという視点も入れながら考えている。
委員長	議論の途中と認識した。中古住宅についてはいかがか。急成長している会社が市内にあるということなので、そういうトップクラスの会社と協力することはありうるのではない。直接協定を結ぶこともあり得るかもしれない。アクションしてみてもいいのではない。
北部地域振興担当次長	まちづくり協議会で移住の取り組みをしているが、地域活動に賛同いただける事業者であれば一度まちづくり協議会の代表に繋ぐことができればと思う。
委員	グランドデザインのところで西谷は人口が1%、面積は広いが全部市街化調整区域であり、第一次産業の%も0.2%である。今、北部の地域のまちづくりというところでJR武田尾駅のバリアフリーに着手し、農業支援のパイプハウス補助金も一生懸命取り組まれたが、申請が2件と聞く。直近3年間で新生児が1人と聞いた。市として西谷地区を将来どうしていくのか。人口減を少しでも遅らせるような対策をとるのか、公共交通にしても街に今の人たちが住みやすくするためにするのか。例えば買い物弱者とかの足づくりのためにするのか。将来どういう風にしていくのかという計画を作り、この事業はこの計画のために必要なのだと市民に理解してもらう形にしないといけない。将来をみたときに、人口減歳入減が見込まれる中で集中と選択が必ず必要となるが、その中で、2000人ほどの人口で新生児もほぼ産まれていない西谷にお金を使ってもいいのか、不平等感を感じてしまう。まちをこういうふうにするから、西谷に投資していくのだという説明がないと市民も納得しない。ぜひグランドデザインや西谷地区開発などを考えていただきたい。
委員長	グランドデザインについては受け入れてもらうほかないかと思うが、ほかに条件不利地域ということで人権問題として、基本的人権として対応していくのか、まちづくりとして付加価値をどうつけていくのか。どんな方向で切り拓いていくのかで大きくベクトルが違ふと思うのでそのあたりの整理が必要である。難しい話だと思うが行政としてあきらめずにしっかりと検討を重ねていただければと思う。もちろん地域の人の声も聴きながらと思うので、さらに難易度が高くなるのは間違いないが引き続きお願いしたい。
委員	何年か前に、肝入りで新名神のスマートインターやSAを契機にSAの活用や西谷地域の産業も含めて第6次産業を作っていこうという動きがあったように記憶している。それが今どうなっているかわからないし、KPIも公共交通ではなく、地域活性化に関するものが話に出ていたように思う。今はどのようになっているのか、またその件は西谷地域活性化の計画に入っているのか。
北部地域振興	おそらく「西谷花の里ブランド」のことかなと思う。地域の方が西谷のブランドをということ

担当次長	商品開発していた取組があった。その商品を SA に展示し物販を行い、今現在も陳列されている。その時に開発を行ったが、以降なかなか新たな商品が生まれていない状況である。SA についてはコロナ禍で利用者も減っていたが、今はコロナ前の状況にほぼ戻っていると聞いている。
委員	今は6次産業の話はもうあまりないのか。あの時は人口減少も踏まえ第6次産業を興して SA を利用する話があった。
北部地域振興 担当次長	今は動いていない状況である。
委員	公共交通サービスの対策はこれから考えるということか。KPI の効果が出ていないので。近隣市では業者ではなく個人に定期補助を出しているところもある。結構いい取組をしているところもあるので研究していただけたらと思う。
委員長	この KPI は減る予定だったがちゃんと守っているというもののなのか、変わらなかったから実績がないという説明なのか。
道路・公共交通 担当次長	現状維持をしていきたいが、このままだと衰退してしまう。
委員	それであればきちんと計画等で打ち出していかなければならない。
道路・公共交通 担当次長	両方やっていかなければいけないと思っている。現状維持も必要。このままでは下がっていくことが目に見えているので、オンデマンド交通を入れたらどうなるかという試算をしたり、小中学生の通学バスの役割も担っているので今後の児童数の推移などを予測するなどしている。
委員	もうちょっと次の一手が必要と思う。また、空き家の活用件数について、空き家対策の委員会ではあまり西谷のことが出てこない。特措法の空き家を対象にしているということかと思うが、委員のメンバーが素晴らしい方が多いので相談してはどうか。民間事業者がどんどん動いているので、KPI の件数も疑問がある。市民農園も、民間のほうが市の事業よりニーズを捉えて進んでいる。空家数は実態とかけ離れているのではないか。
北部地域振興 担当次長	ここでお出ししている空き家活用件数というのはまちづくり協議会が把握している数ということなので、実際の活用件数とは乖離があるかもしれない。
委員	移住相談窓口の相談件数について、アンケートなどをされていると思うが、実際に相談等にいらっしゃった方はどういう生業や収入源でもって移住を考えているのか。今の仕事を変えずに住環境だけを変えたいのか、仕事までも変えてリセットして新たな環境に行きたいのか。もし後者であれば、起業であったり、農業との結びつきであったり、考え方も変わってくるのではないかと。数としては少ないが、そういうところはいかがか。

北部地域振興 担当次長	今、伊丹や川西に住んでいるけれど、宝塚の西谷に家を探しているという方もいる。西谷です でに観光農園などを借りている方が、西谷はいいところで、人も優しいということを感じ地域に 住もうかなと思っていただくこともあった。そういう方が多い。
委員長	それでは本件の審議はこの程度とさせていただきます。 議題2「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）評価」について 担当部局から説明を。実績 PR を。
北部地域振興 担当次長	「やる気が生み出すイノベーション!新たな一歩応援事業」 ・商工業・農業・観光などあらゆる分野を横断的につなぎ、「住みやすく魅力あるまち」のイメ ージを定着させ、地域活性化を促進する。 「ダリアで彩る花のまちづくり事業」昨年度の実績として、交付金を活用しダリア生産の担 い手確保及びダリアを活用した加工品開発支援を行った。担い手確保では2名の新たな営 農サポーターが加わり9名となった。商品開発についてはダリアの球根を使った化粧水、ダ リアをモチーフとしたキャラメルの2商品の開発に至った。
産業振興担当 次長	・「新事業創出事業者支援事業」新たなビジネスモデルを立ち上げようとする事業者支援を 行うもので令和5年度は2件認定した。
観光文化振興 担当次長	・「ウェルネスツーリズム推進事業」観光コンテンツとして昨年度4つの事業が生まれた。その うちの1つであるランタンのイベントでは約 1500 人の方が来場された。さらに今年度も実 施するとのことで、コンテンツとして成長したと評価できる。
産業振興担当 次長	「新しい生活様式に対応した起業支援事業 ～若い力で新しい宝塚を創造する～」 ・「店舗等リノベーション支援事業」市内の既存店舗等が実施する魅力向上に資する店舗改 装などにかかる工事費等の一部を最大 30 万円補助する事業で、令和5年度は 10 事業 者に補助金を交付した。 ・「若手起業家支援事業」若年層の起業を促進するため大学において機運醸成セミナーを 実施し、10 名の参加があった。 ・「自己表現能力向上事業」小学生を対象に表現力・コミュニケーション能力を向上させるグ ループワークを実施。ワークショップ実施校数は 23 校
委員長	先ほどの総合戦略の議論の中にも交付金の部分があったかと思うので議事録にも再掲願 いたい。
事務局	承知した。
委員	すでにコメントしているが、北部西谷地区についてはグランドデザインをどうするか、現状維持 なのか宝の山として伸ばしていくのか、難しいと思うが今のままでは方向性が見えない。現状 維持で少し夢が見えるようにも思うが、この金額では苦しいと思う。新しい事業については他 の商工会議所や市が行っているように、「新事業テーマ発表会」を行って最優秀発表テーマを

	市長表彰し、皆さんに知ってもらおうという機会があればいいと思う。
委員	若手起業家の話だが、大学生を対象にするのは無理があると思う。若手で起業するのは30歳代で、一度就職して自分でしようとする人は、私の周りでは大体30代で独立しているように思う。設計事務所とかまちづくりの会社をすとか。声をかける場所等が間違っているように思う。そういう方々は税金対策をどういう風にしたらいいとか人を雇う時に保険どうしたらいいとか相談したいことたくさん持っていて、ターゲットを変えれば、参加者が3人ということとはなくなるのではないかな。
委員長	あわせて小学校でワークショップを実施するということだがこれは若手起業家の支援につながるのか。
教育支援担当次長	小学生に直接起業精神を養うということはなくとも、それにつながる学びとしてキャリア教育というものがあり、その中に人間関係形成、社会形成能力を養う目標がある。その中では、コミュニケーション能力を高めるということが必要なので、将来仕事をし、社会的自立・職業的自立には、こうしたことが当てはまるということで位置付けている。
委員長	交付金を受ける中で施策の目標は新しい生活様式に対応した起業家支援事業だが。
教育支援担当次長	小学生でいきなり起業精神の涵養が必要とはならないが、キャリア教育を進めていく中で、起業精神につながる素養が養われると思っている。
事務局	諸々の事業をするために、国からの交付金を得るには一通りのストーリーを立てる必要がある。関連する事業をできる限り組み込んだうえで事業計画を立てている。
委員	(1)の指標③「新たに立ち上がったビジネスモデルの営業利益率の平均」で目標値がなぜ1%なのか、そもそもなぜ営業利益率が目標となっているのか疑問である。なんの意味合いがあるのか。また、今回営業利益率が9.3%ということだが、普通の中小企業でもこんな数字は出ない。正しい数値なのか。
産業振興担当次長	この事業自体が、新しいビジネスモデルを構築することによって、事業継続、もしくは事業拡充を支援することが目的となっており、実際の利益率をあげることが重要と考え、KPIを設定した。ただ、委員ご指摘のとおり、産業振興で成果を測るときに即時で成果が数字として表れるのかというところは正直難しいとは思っており、苦慮しながら成果指標を設定している実情がある。数字については今年度補助をした事業者に聞き取りを行い、この事業を実施したことによる利益率をだしているの、一般的な営業利益率とは違うかと思っている。
委員	そもそも、目標であれば最低5%ぐらいにすべきだろう。そもそも組織が会社なのか、個人なのかで出し方が全然違うので指標を聞き取っただけで鵜呑みにできるかということ無理ではないか。数字が出れば出るほど信ぴょう性がなくなるので出すならばきっちりと精査し、意味のある数値がとれないなら指標は使わないほうがいい。

事務局	指標については、交付金をとるうえでその事業に関連する成果指標を国から求められる。
委員長	それは承知したうえでのコメントである。 事業の評価を確定する必要があるためお諮りしたい。 まず、(1)やる気が生み出すイノベーション!新たな一歩応援事業について、担当部局の自己評価は「②地方創生に相当程度効果があった」とある。これに合わせるとすると事業評価のところに「②総合戦略の KPI 達成に相当程度有効であった」ということになろうかと思うが、委員からの指摘もあり効果があったと判断できるか、実績も見つつ挙手で意見を聞きたいと思う。 「②総合戦略の KPI 達成に相当程度有効であった」 0 人 「③総合戦略の KPI 達成に有効であった」 多数 多数が③をあげたため、<u>③を委員会の評価とする。</u> 続いて(2)新しい生活様式に対応した起業支援事業～若い力で新しい宝塚を創造する～について、担当部局の評価は「③地方創生に効果があった」とつけている。いかがか。 「③総合戦略の KPI 達成に有効であった」 多数 多数が③をあげたため、担当部局と同じく<u>③を委員会の評価とする。</u> 外部有識者の意見については、関連したものを議事録の中から拾っていただくこと、合わせて指標に対してコメントも記載いただくということで対応いただければと思う。 全体振り返ってなにか補足等あるか。
委員一同	(なし)
委員長	本日の議事は以上である。委員から何かご意見や確認等はあるか。 なければ事務局から連絡があればお願いします。
事務局	次回委員会は、8月20日(火)9時30分～12時 市役所3階、3B 会議室にて開催する。 当日の議題は2つで、1つはこれまでご議論いただいた対面評価、書面評価、そして本日の総合戦略、交付金の評価を踏まえ、委員長と事務局で答申書案を取りまとめるので、それについて意見交換をいただく。もう1つは、これまで3年間の行政評価委員会の進め方等の振り返りと次年度どうしていくべきかの議論をしたいと思っている。
委員長	振り返りについて意見がある場合には事前にまとめていただいて共有いただいてもいい。3年間の振り返りをさせていただきたい。 閉会